

## 読みから学べば漢字は少しも難しくない

お気づきのように「ひらがなより先に漢字を」「漢字はまず読めればよい」といった私の方法論は、現在の日本の学校教官のやり方とは、まったく正反対のものです。

では、そもそも幼児や小学校低学年の子どもに、まずひらがなから教える教育が一般的なのは、なぜだと思いませんか？

おそらくほとんどの方は「それはひらがなのほうが漢字よりやさしいからに決まっているじゃない」とお答えになるでしょう。確かに、漢字の大半は、ひらがなより画数が多く、複雑な形をしていますから、そう考えるのも無理はありません。

しかし実は、画数の多さや字形の複雑さが覚える支障になるのは「書く」ことを前提としているからであって、「読み」を覚えるだけなら漢字はひらがなよりずっとやさしいのです。

もし、まだお子さんが、ひらがなも漢字もまったく読めない状態でしたら、ぜひ試してみてください。まず、お子さんがよく知っている言葉（たとえば「鳩」「蟻」など）を漢字で一枚ずつ紙に書いて、それをお子さんに見せながら「これは鳩よ」「こっちは蟻よ」と読んであげます。しばらくして、もう一度同じ紙を見せ「蟻はどっち？」と尋ねると、必ず正しく答えられるはずですよ。

ところが、ひらがなで「はと」「あり」と書いた場合には、こうはいきません。その場では覚えられても、すぐにどちらがどちらだったか、記憶があやふやになってしまうのです。

これは、複雑な形をした漢字のほうが、単純な形のひらがなより記憶の手がかりが多いためです。人の顔を覚えるときも、眼鏡やほくろなど、特徴が多い顔の人ほど印象に残りやすいものです。漢字のほうが覚えやすいのも、これとまったく同じ原理なのです。